

出血したときの 応急手当(止血法)は？

スキーヤーの皆さんに起きやすいケガや病気への疑問・質問に北海道のお医者さん、歯医者さん、救急隊員さんがお答えします。



答える人
若松 淳

(わかまつ まこと)

北海道・胆振東部消防組合消防署安平支署
1969生まれ、北海道千歳出身。札幌医科大学医学部医学研究科(修士課程)。救急救命士。テクニカルブライズ。スキーと温泉とビールを、こよなく愛するスキーヤーです。スキー場や救急現場での、実際の経験を元にお話をしていきます。



友人が頭を打ち、すごく出血しています。すぐに救急車を呼ぶべきでしょうか？

頭皮や顔には、血流が非常に豊富に流れており、手足に比べて傷口が小さくても出血量が多くなる傾向にあります。また、皮下の脂肪や筋肉組織が少ないため、直接血管を損傷して溢れ出るような「活動性の出血」となることもあります。しかし、成人では頭皮からの出血で、生命に危険を及ぼすような出血量に達する心配はほとんどないので、落ち着いて観察を実施しましょう。

○まず確認すること

以下の点に注意して、ケガをした人を観察します。緊急の場合は、躊躇せずに救急車を要請しましょう。

・意識：ケガをしたあとに、一時的にでも意識を失った場合は、すぐに医療機関を受診してください。声をかけないと眠る、あるいは眠気がある(ボーッとしている)、周囲の状況が理解できない場合も同様に、すぐに医療機関を受診しましょう。

・瞳孔：意識状態とともに、瞳孔に左右差や片方に寄っているなどの異常がある場合も、すぐに医療機関を受診しましょう。

・呼吸・脈拍の異常：呼吸は普段と同じような呼吸様式かどうかを判断します。脈拍が確認できれば、「速いか・遅いか」「強いか・弱いか」と「リズムは一定か」を確認しましょう。興奮もしていないのに脈が速かったり、脈が弱くしかふれない場合も医療機関を受診

します。

・感覚の異常：痙攣の発作があった、目が見えづらい、かすむ、手足が痺れて動かなくなる、痛みが激しくなる、立つことができなくなるというように、感覚に異常を感じたらすぐに医療機関を受診します。

・嘔吐：繰り返し吐くような場合も医療機関を受診してください。

・傷口以外からの出血：耳や鼻から出血があったり、半透明な液体が出てきたりした場合も、急いで医療機関を受診してください。

○止血をする

止血の基本は、出血点に清潔なガーゼやタオルを押し当て「直接圧迫止血法」です。頭部の出血では、頭皮から数ミリ深い場所には頭蓋骨があるので、骨に異常がなければ髪の毛をかき分けて出血点を確認し、押さえることは容易です。でも、大きな骨折があったり、周囲が腫れ上がっている場合は、なかなか出血を抑えるのがむずかしくなります。そのため「直接圧迫止血法」と並行して、ケガの部位に向かっている動脈を圧迫すると効果的です。側頭部に出血がある場合は、耳の前にある動脈を押します(写真1)。傷口が汚れている場合は、水道水で構わないので、傷口を十分に洗浄してから止血を施してください。

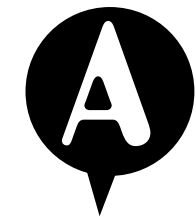
○包帯(三角巾)をする

止血を施したら包帯を巻きま

す。止血を施しながら包帯を使用するときは少々きつめに巻きますが、止血はあくまで直接圧迫によって行なうのが良いでしょう。前額部や後頭部のケガには包帯が便利です(写真2)が、頭頂部のケガには三角巾が便利です。もし三角巾が手元にあれば写真のように使ってください(写真3)。

○経過観察をする

強く頭部を打った場合、数時間後、数日後に症状が現われることがあるので、しばらくは注意深く経過観察が必要です。とくに老人や小児ではケガをしたあとは無理をせずに、医療機関を受診しましょう。また、重症の場合には首を損傷している可能性もあるので、むやみに動かしたり、自ら移動したりしないようにし、救急隊の到着を待ちましょう



慌てずに意識や容態を観察し、異常がなければ止血処置を施して、救護室で手当を受けてください。